

---

# kiss manual

かなた葵

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

k i s s m a n u a l

### 【Nコード】

N 3 1 3 9 Y

### 【作者名】

かなた葵

### 【あらすじ】

「なんで私だけあんな上司なの？」恋愛が苦手な新入社員の蕾の目の前には、仕事の鬼である上司「森崎主任」が。「いつか一泡吹かせてやる！」と意気込むのですが……。

この二人の恋は始まるのか……？

サイトで掲載していたものを、加筆修正しました。

## 1・今日も残業 〱 〱 side 〱

「お疲れ様〜！」

「お疲れさまです」

「お先でーす！」

定時を一時間前に迎え、どんどんオフィスの人数が減り静かになっていく。

この四月から会社の方針が “ ノー残業 ” になり定時上がりの人も多くなった。

一人、また一人と帰宅の途に着き、オフィスの人口密度が下がってゆく。

「蓄ちゃんまだ仕事終わらない？ 大丈夫？ 急ぎなら手伝うよ！」

三年目で二つ年上の久住先輩くすみが声をかけてくれる。

いつもオフィスで一緒にお弁当食べたりと仲良しの先輩で『瑠璃ちゃん』と呼んで慕っている。

もちろん仕事中は「久住先輩」って呼んでるよ。

やさしい人で、『学生の二歳差って大きいけど、社会人だとそんなに気にならないから名前がいいよ』とお許しをもらっているの。

確か今日は遠距離の彼と『二週間ぶりのデート』って昼休みにウキウキしながら言ってた。

「大丈夫です。プリントだけなので……明日使う資料作り終わったら帰ります」

「そう？ まあ、無理しないでね〜！ お疲れ」

「お疲れ様です！ 瑠璃ちゃんデート楽しんできて下さいね〜！」

笑顔で小さく手を振りながら挨拶を交わす。

化粧直しもバッチリ先輩は、ハハハッと照れ笑い。

卸したてのワンピースはNATURAL ROOMというセレクト  
ショップで先日買ったものだ。

パールピンクの生地は大柄の花模様、裾がアンシンメトリーにな  
っている。

トントンと立てた書類を両手で机で揃え、左上をホツチキスでパ  
チンと留めてモニター右下の時間を確認する。時刻は十九時半。

鬼のような上司が、いーっぱい仕事を出すから、まだ帰れない。

自然とため息が零れる。ため息を吐くと幸せが逃げるって言うけ  
ど、疲れてるんだもんしょうがない。

あれは……定時一時間前の事だった。

「相原。今、急ぎの仕事ないよな」

「そうですね。この資料は明後日のプレゼン用です」

「じゃあ。これ明日、朝一に会議で使う資料。三十部作つといて。

俺これから会議だから」

「はい。わかりました」

渡されたのはUSBメモリ。

これからプリント？ って何枚あんの？

ファイルを開いてびっくりした。

うわ。カラーページの枚数が多いよー！ 何時間かかんの？

なにが “ノー残業” だよ！

あゝ！！ なんて私だけあんな鬼上司なの？

新入社員として、この会社に入社して、早五ヶ月。  
思えば今までの生活は順風満帆だった。

小さい頃から、母にも頼りにされるお姉ちゃんで三つ離れた弟の  
面倒もよく見た。

小学校では学級委員、中学・高校では生徒会と、みんなのために  
頑張ってきた。

絵にかいた優等生。

先生にも恵まれ、所謂、褒められて伸びるタイプ。

高校、大学と受験も難なくこなし、就職だつてこの氷河期に数社  
目の面接で十月には早々と内定をもらった。

しかし、社会に出て、初めての挫折を味わった。

いや。希望の会社に内定をもらったし、四月を迎えるまでは順調  
だった。

四月、五月の研修中も率先して行動し、人事課の人にも「センス  
がある」と褒められた。

六月本採用になり、私は希望していた営業二課に配属された。  
ここまでは予想通り。

問題は上司。私を担当してる森崎主任はまさしく『仕事の鬼』だ  
った。

「相原。まだやってるのか？ もう帰れ」

会議を終えた鬼主任が、缶コーヒーを片手に戻ってきた。

また嫌味？ 『まだやつてる』が『まだこんなことも終わらない』にしか聞こえないんですけど。

しかも、『まだ』って……自分が頼んだ仕事やつてる部下にそんな言い方する？！

「もう少しで終わります」

チラッと主任を盗み見る。

こんな時間まで働いても、草臥れた感の無いスーツ。  
まだまだ仕事するって事かしら？

「今、終わりました」

出来上がった資料をプラケース（半透明のプラスチックで出来たダンボール）に纏めて入れ、作業台の上に置く。

パソコンをシャットダウンし、その間に手早く荷物をまとめる。

主任はモニターも見つめながら缶コーヒーに口をつけてる。

立ち上がり「失礼します……」と挨拶して逃げようかという声を掻き消し、

「相原。明後日のプレゼン十一時から十四時に変更になったから」と一言。

えー！ また変更！？ と思いながらも顔には出さず付箋にメモしパソコンに貼りつける。

「分かりました。お疲れ様です、お先に失礼します」と椅子を机にしまう。

「ああ。おつかれ」

顔をこつちに向けることもなく、返事が来る。  
顔見て挨拶もできない大人って嫌ね。

明後日のプレゼンは初の私の書いた企画書が使われるプレゼンだ。  
ちなみにこの企画書は先輩の作った内容を清書するのではなく、  
発案自体が私の企画だ。企画を練り、資料を集め、企画書にすると  
いう作業を一人でこなしている。普通なら入社二、三年目の仕事ら  
しいが、入社数ヶ月の新人にそんな仕事振る主任。  
信用されて仕事任されてると思いたい。

入り口の右側に設置させているタイムレコーダーにICカードを  
翳す、首から下げている社員証にはICカードが内蔵されておりタ  
イムカードの代わりに記録してくれる。

このカードは社食の支払いから会議室や資料室の鍵となり、使用  
状況が社内LANで確認できる優れもの。便利な時代になったな。  
なんて感心しながら、エレベーターに乗る。

正面玄関でもう一度社員証を翳し、退社完了。

もう！ ノー残業デイぐらいは、残業なしで帰りたいよ！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3139y/>

---

kiss manual

2011年11月7日12時06分発行